

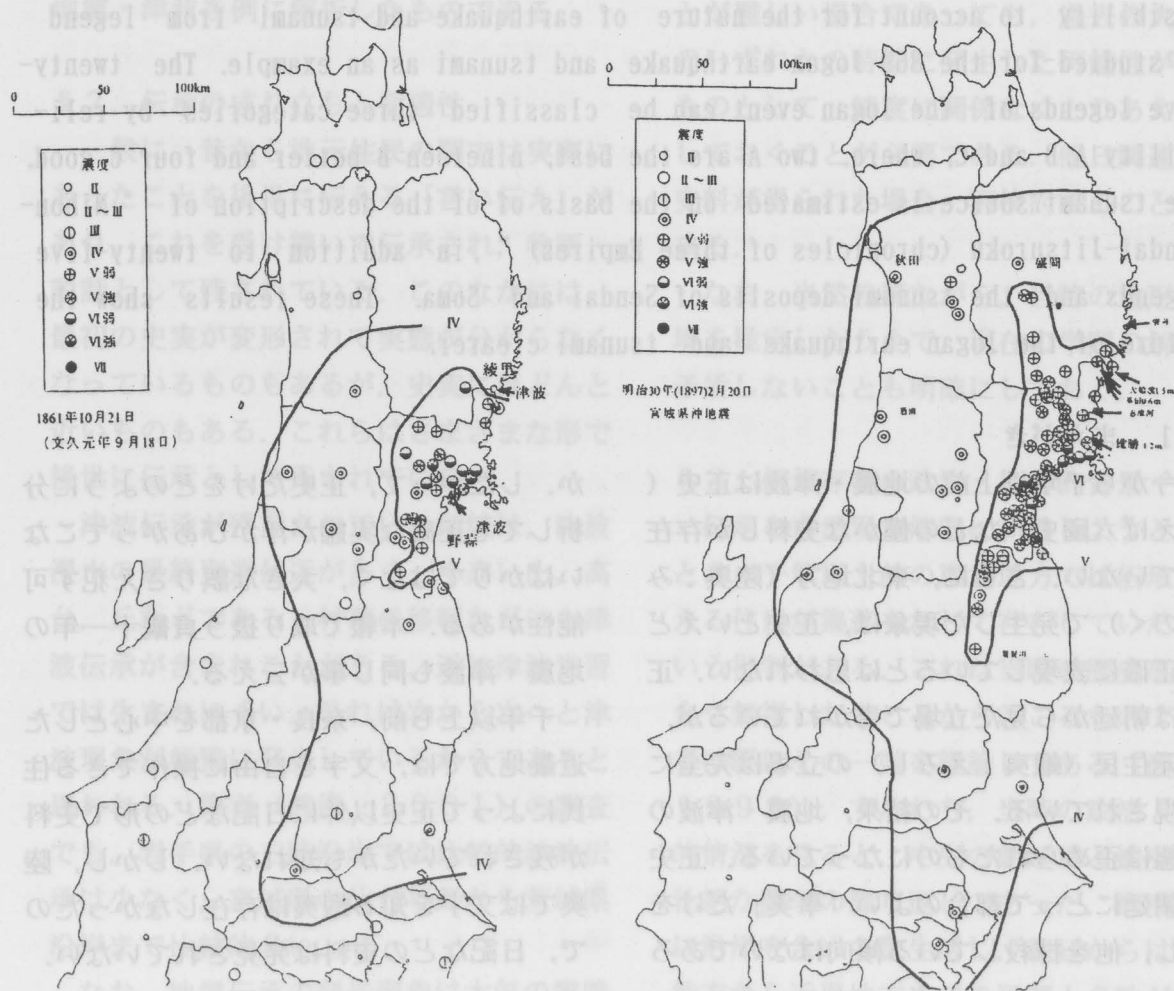
江戸時代・明治時代記録に見る

宮城県沖地震の再帰性

東京大学地震研究所* 都司嘉宣

1978年の宮城県沖地震は、(1)地震動による被害域が宮城県平野部のほぼ全域と、福島県北部、および北上川沿いに岩手県におよんでいること、および(2)小さな津波を伴っていること、の2個の特徴を挙げることができる。「新収・日本地震史料」によって江戸時代の、東京大学地震研究所に保存された新聞記事切り抜き記録によって明治時代の記録をそれぞれ見直すことによって、仙台平野に江戸時代以来被害を生じたすべての地震の震度分布図を描き、津波

に気付かれた場所をプロットしてみた。その結果、享保二年(1717)、寛政五年(1793)、天保六年(1835)、文久元年(1861)、明治三十年(1897)の仙台平野の地震被害が1978年宮城県沖地震に非常によく似た地震であることが判明した。なお、寛政五年(1793)の地震は津波被害が大きく、かつ広範囲にわたっているので、宮城県沖地震の要素に加えて三陸沖地震の要素を併せ持っている。



* 〒113-0032 文京区弥生 1-1-1